

みんなの広場

※上の黒点は、題字と同じ内容を点字で表したものです。

主な内容

- 理事長 巻頭言「『未来への誇り』を糧に」…………… 2
- 新規事業所等紹介 …………… 3
～みたけの郷デイサービス、グループホーム「ほくと」～
- 『わたしのせかい』～アート活動から学ぶ～ …… 4、5
- シリーズ わたしたちの自慢⑥ …………… 6
～みたけの園・みたけ学園、つつじ～
- 時の足跡 ～一年を振り返って～ …………… 7
- 岩手県社会福祉事業団総合防災訓練 …………… 8
- 最速への道 ～全国障害者スポーツ大会入賞～

120号
平成27年3月1日
発行



工芸部門最優秀賞受賞! ～第22回岩手県障がい者文化芸術祭～

生活介護事業所「ジョバンニ」利用者の共同作品『巻紙パッチワーク』が、第22回岩手県障がい者文化芸術祭の工芸部門において、最優秀賞を受賞しました。ジョバンニを代表して、杉原英子さん(写真)が表彰式に出席し、表彰状をいただきました。

※2ページに関連記事

社会福祉法人 岩手県社会福祉事業団 / ホームページ: <http://www.iwate-fukushi.or.jp>

みんなの広場 2015 第120号 平成27年3月1日発行

発行/社会福祉法人岩手県社会福祉事業団 〒020-0114 盛岡市萩原三丁目7-33
電話 019-662-6851 FAX 019-662-8044
URL <http://www.iwate-fukushi.or.jp> E-mail fukushij@iwate-fukushi.or.jp

岩手県社会福祉事業団総合防災訓練

平成27年2月16日、岩手県社会福祉事業団総合防災(事業継続)訓練を実施しました。大規模災害発生時における事業継続と早期復旧を図るための、法人本部と各施設の連絡及び支援調整を中心とした訓練で、法人全体で行う防災訓練としては初の試みです。

災害の想定

東日本大震災の余震(震度5弱から震度6強)が東北地方を中心に発生し、津波注意報発令。県内一部地域に停電、断水、固定電話の通信不能、携帯電話の繋がりにくい状況が発生。



午後1時30分、全施設一斉に訓練を開始しました。各施設では避難等の訓練を行い、電話等の通信不能を想定し、可能な通信手段で本部へ被害状況を報告するという流れで行いました。



揺れが収まったら避難誘導



児童の施設では学校に連絡をして子どもたちの安否を確認



法人本部では各施設の被害状況を書き出して状況を把握します



物資要請の連絡を受けた施設は備蓄を確認



電話が繋がりにくい場合はメールで連絡



松山荘からの支援要請を受けて物資の調整や運搬トラックの手配等を行っています

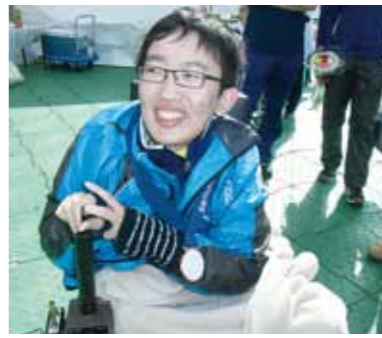
当事業団では昨年、事業継続計画(BCP)を作成しましたが、BCPは、訓練を通して改善していくことが重要です。今回は連絡訓練ではありましたが、たくさんの課題が明らかになりました。今後、訓練を積み重ねて、より実効性のある計画に仕上げたいと考えています。

最速への道

～全国障害者スポーツ大会 入賞～

県立療育センターの医療型障害児入所施設を利用している菅野優希さんは、平成26年11月に長崎県で開催された「長崎がんばらば国体・長崎がんばらば大会」に出場しました。出場した種目は、陸上競技のスラロームという競技で、全長30mの直走路に置かれた赤白の旗門を車いすや電動車いすで通過し、そのタイムを競います。赤白の旗門は2m間隔でコース両脇または真ん中に置かれています。白色は前進、赤色は後進で、真ん中に旗門がある場合は、旗門を1周して通過し、旗門を倒した場合は1本につき5秒加算される、というルールです。

全国大会という大舞台で、完走し、3位という成績を取った菅野さんから、大会に出場した感想や今後の抱負について、語っていただきました。



今回、全国大会に出場できたのは日々のプラクティス(練習)と皆の応援のおかげだと思います。見て楽しむしかなかったスポーツ。それが、スラロームと出会い自分の技術を最大限に発揮できるようになりました。小さい頃の「レーサーになりたい」と

いう夢が叶い、とても嬉しいです。長崎での競技は小雨や寒さもあり、自分にとって必ずしも良いコンディションではありませんでした。でも、いくつかのラインを考え、走りきることができました。結果は3位でしたが、岩手代表として全国と勝負が出来たことが最高でした。

また、新たな目標も見つけることができました。「2016希望郷いわて国体・希望郷いわて大会に出場して1位になる」というのが次の目標です。スラロームは奥が深いということを改めて実感しました。自分の腕を磨くため、長崎で出会った友達や仲間とともに走り込んで、最速を目指したいです。

菅野優希さん

「未来への誇り」を糧に

自らを主体として考える年に

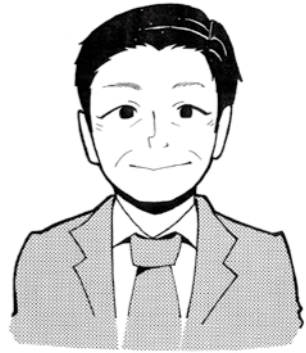


イラスト
好地 莊
菊池未来子 生活指導員

今年、当事業団は、中長期経営基本計画の中間見直しの年であります。私達自身が常に、自己で判断し、責任と自由な発想で実践する力を持ち進んでいく「元年」ともいうべき年であります。近年、社会福祉法人改革が叫ばれ、地域社会への貢献や法人としての透明性確保いわば説明責任等が検討されてきております。

1 私達、社会福祉事業団とは？

これら検討の内容は、今般の制度改革の議論の有無に関わらず行ってきたことでもあります。今地域が「社会福祉事業団に何を求めているのか、事業団として地域ニーズに沿って何ができるのか」、改めて確認するチャンス。『事業団だから当たり前前ということではない、事業団として立つべき位置、立てる位置』を、私達自身が皆で思い起こすタイミングと

も言っているのではないのでしょうか。

2 「知」と「情」両面からの説明力

当法人として「意識を持った情報発信」を積極的に行っていくことが大切であります。利用者や地域住民の皆さんに、地域で行っていることはもちろんのこと、事業団及び各施設としての考えを、理解・納得をいただくように伝えるべき、説明責任があります。そこそこが（地域との信頼関係の構築に、利用者や地域住民の皆さんとの一体感の醸成に繋がっていくこととなります。

私たちが事業団がこれまで担ってきた、これからも担っていくであろう、地域福祉の要としての立ち位置を当たり前のこととしてではなく、私たち職員が意識的に確保していくためには、「知」と「情」両面からの説明力を身に付けて、さらに実践していかなければならないと思っております。

3 福祉サービスの向上と経営力は両輪

老朽化した「みたけの園・みたけ学園」の改築検討が進んでおり、「療育センター」も矢巾の岩手医科大学の隣地への整備が始まります。福祉サービスの向上と併せて、財務基盤の安定は重要であり、より迅速・詳細な経営分析の体制を整え、28年度からの自立（自律）経営の

岩手県社会福祉事業団

理事長 水野 和彦

確立に向けて、現実・實際を正確に把握した上で、これをベースに、「経営の視点を加えた：サービス改革・改善」を進めていくことは、私達皆の総合力の発揮如何にかかっております。

4 誇りと自信を確認しよう！

職員研修講話を通じて、商工観光業や建設、農林水産業、医療や教育等々、「福祉」は多様な仕事の中の「部」であるとともに、「人の生活の幹」の部分、生活としての基礎である、と述べてきました。社会福祉法人の制度改革が検討され、存在意義が問われている中、これまで岩手の福祉を支えてきたことを自負し、「事業団としての誇りと自信を再認識」することが、今こそ大切ではないかと思っております。

今年も、内外の環境の様々な変化が生じると思いますが、福祉事業を通じ培ってきた先輩達の積らせた「実」をしつかりと「次の世代への種子として改良」を重ね、利用者や職員の皆さん、そして地域の方々の、「未来への誇り」となりうる「事業団」として、限らない地域福祉の向上を目指していきたいと思っております。この一年、それぞれの悩みを糧にしなが、次に繋がる、共に歩む一年にしていきましょう。

巻紙パズル

生活介護事業所「ジョバンニ（花巻市）」

幅1.8cm、長さ20cmの紙テープをくるくる巻いて作ったいくつもの巻紙。その巻紙を、ジョバンニのメンバーが思いのままに、牛乳パックの底の部分にレイアウトしました。一つひとつを熱心に、やり始めたらず皆さん夢中です。個性豊かで誰が作ったものかすぐにわかります。巻紙を貼り付けた牛乳パックを、メンバーがカラーリングした額の中に配置して、巻紙パズルワークは完成しました。

この作品が最優秀賞となり、一番喜んだのは作品の功労者、杉原英子さん（表紙写真）です。毎晩の余暇時間に、紙テープを巻いてはセロテープで留める、という作業を続け、今回使用した巻紙を二人で作りました。写真の笑顔からも、嬉しさが伝わります。

個性的な牛乳パックをつひとつつなぎ合わせた賑やかなこの作品は、一人ひとりが手を取り合ってワイワイ楽しむジョバンニそのものです。

さあ、次は何を作りましょうか。

（副所長 高橋あけみ）



杉原さんが毎晩コツコツと作っていた巻紙



ここまで一年半かかりましたが完成間近!

新規事業等紹介

新たにスタートした事業所、開設したグループホームを紹介します。



みたけの郷デイサービスオープン

みたけの郷デイサービス（滝沢市）

平成26年11月10日に「みたけの郷デイサービス」が開所しました。みたけの園・みたけ学園から車で5分ほどの滝沢市穴口の民家を活用した、高齢者対象の小規模通所介護事業所です。平成19年に「みたけの郷居宅介護支援事業所」を開設し、ケアマネジャーが相談業務とケアプランの作成を行ってきましたが、直接サービスを提供できる介護保険事業所としては当事業団初となります。

11月27日に、利用者、ご家族、地域の方々、関係機関の皆さまにお集まりいただき、開所式を開催しました。皆さまから、温かな力強いお言葉を頂戴し、職員同気持ちは新たにしたいところです。テープカット、記念写真撮影と終始和やかな雰囲気の中で行われま



水野理事長からご挨拶です



温かい拍手とともにオープンしました

した。終了後は、ホールでコーヒーを楽しんでいただきました。このホール、元は壁で仕切られた2つの部屋でした。リフォームで壁を取り除く際、強度の関係から柱を残さなければいけないという問題がありました。設計士さんと相談し、残った柱を囲んでテーブルを設置することで、おしゃれなカフェのような、素敵な空間になりました。大きなガラス戸から見える外の風景も趣があり、利用者の皆さまに大変好評です。



喫茶店のような落ち着いた雰囲気のホールが大好評

デイサービスを利用する場合には、介護認定が必要になりますが、2階には施設から移転した居宅介護支援事業所があり、ケアマネジャーが常勤していますので、介護申請からお手伝いできます。お気軽にご相談ください。

（所長 道上瑞子）

七つの星が集まり「ほくと」開設

共同生活事業所「じゃんぶ」（花巻市）

共同生活事業所「じゃんぶ」では、当事業所12番目のグループホームとして、平成27年1月7日、紫波郡紫波町に「ほくと」を開設いたしました。

JRR日詰駅から徒歩5分、大手のスーパーまで徒歩15分という好立地の条件で、株式会社東北TKR様の社員寮であった建物を、ご厚意によりお借りすることになりました。建物は、2階建てで、一室一室がアパートの部屋のようになっており、プライバシーに配慮された造りとなっています。設備としては、洋式トイレが1階と2階にあり、浴室の他、シャワールーム、広い洗面台が設置されています。

将来はグループホームを出て、一人暮らしをしたい、と希望する方にとって、ステップアップの場として、大いに活用できるグループホームではないでしょうか。夢と希望に満ち溢れている利用者様が7



6つのシャワールームが完備されいつでも自由に使えます



完全個室化されプライバシーに配慮した造りです



食事はみんなで和気あいあいと♪



以前は社員寮だったグループホーム「ほくと」の外観

名で新生活をスタートさせました。北の夜空に輝く七つ星になぞらえ、「ほくと」は一人ひとりの生活を、星のように輝くかけがえのないものと受け止めながら、その夢を応援していく場にしていきたいと思います。

（生活支援員 三浦照仁）

わたしの せかい

～アート活動から学ぶ～

今、障がいのある人のアート活動が盛んに取り上げられており、当法人にも、魅力的な作品を生み出している方がたくさんいます。そんな方々を、素晴らしい作品とともに紹介します。

今回は、松山荘の坂本三次郎さん、みたけの園の三上正泰さんの活動と、お二人を始めとする多くの方のアート活動に深く関わってきた職員のコメンタリーを紹介します。

アート活動からの気づき

かたくり 業務係長 北岡細子

アート活動に携わり、20年余りが経過します。当初は、利用者支援の環として取り組み、作品展で入賞することを目指していました。しかし、たくさんの方々の作品と関わっていく中で、アート活動は、その人が自分らしさを表現するための一つのツールであると感ずるようになり、私自身の考え方は徐々に変化していきました。

彼らのアート活動は、私たちの仕事や趣味の活動と同じで、「その人らしい生き方」が表現されていると感じます。「その人らしい生き方」を支援するのは、時に「意味のない活動」として邪魔にされたり、迷惑がられたりし、制限されることもありましたが、しかし、活動に没頭する姿や、でき上がった作品を眺める穏やかな表情、作品そのものを見ると、そこに「その人らしさ」がたくさん詰まっていることに気づかされ、一つのアートとして味わいや豊かさを感じることがようになりました。身近な人たちがそういった視点に気づき、見守り、支援することで、彼らの活動はアートとして認められ評価されるようになっていきました。

今年度は障害者芸術活動支援モデル事業が開始され、また、芸術や福祉の各関係者双方が活発に活動するようになっていきました。今後、これらの動向の情報収集を行い、本来の「表現」の意味を踏まえた活動を継続し充実させていきたいと思っております。



目を輝かせながらボールペンについて解説



どれも彼のボールペン



三上 正泰 さん

余暇が創作活動へとつながり、ひとりの作家として評価を受けた方が三上正泰さんです。

ボールペンやペットボトル、石油ボンブや、ラジカセの電源コードなど、彼の手が加わると独創的な芸術品へと変身します。「いわて・きららアート」に入賞したことをきっかけに、当時の滋賀県社会福祉事業団主催の「障がいのある方が製作する作品展」にも出展されました。ボールペンに対する想いは人一倍、いや何十倍も深く、いろいろな材料をセロテープで丁寧につなぎ合わ

せては作品を完成させていきます。

ただし、完成したと思われた作品は、彼の手によって分解され、別のものにつながれ、そしてまた離され、ごんごん形を変えていくのが特徴です。作品展のなかで、彼の作品は「諸行無常」と紹介されました。これは、彼の限りの想像力と創作意欲を表しているのだと思います。材料に囲まれながら製作に取り組む姿は真剣で活き活きとし、まさに職人そのもの。こんなにも夢中になれるものがあることに、羨ましいとさえ思えてくるほどです。

彼の才能が発掘されたように、私たち支援者が見方を少し変えることで、新たな発見や気づきにつながっていくのではないのでしょうか。

(みたけの園 就労支援員 安村文恵)



2014年2月開催の「オール・ブリュットランドスケープ」にも出展



最新作にも力が入っています



本日の活動はここまで!



世界に入り込み中...



坂本三次郎 さん

何十年も前のある日から始まった創作活動は、93歳の現在でも続いており、春先から初秋にかけて、園庭やグラウンドがキャンパスになります。坂本さんの活動に携わって3年が経とうとしていますが、彼の作品は、今までに二つとして同じものはなく、おそらくそれ以前も同様であったと推測されます。季節に応じた植物、道端に転がっている木片やパイプ等、何でもよいように思えるものが創作意欲を刺激するようです。

中でも葉の大きな草は一番のお気に入り、施設の敷地内や近くの空き地を日々転々と歩き回って採集し、それが様々な模様を描く材料に変身するため、草刈もおいそれとはできないことがあります。

坂本さんが作るものを芸術評論家の方々は、「アースアート」と表現していますが、彼にとつては生活であり、遊びであり、日々の感情や記憶、それらが一体となって創作活動として表現されていると感じています。

作品ができ上がると穏やかな表情でしばらく眺め、そして、また新たな物を作り始めます。これからも自由気ままに創作し、その作品を通して、私達は彼の溢れるエネルギーに触れることができます。これからもその活動を静かに見守っていきたいと思っております。

(松山荘 生活指導員 横坂彩海)



じっと見ていたくなる
三次郎さんの遊び心



2012年「いわてきららアートコレクション」
において「奨励賞」を受賞した作品の一部



時の足跡 ～一年を振り返って～

平成26年度新採用職員28名が、それぞれの職場で第一歩を歩み始め、一年が経とうとしています。そこで、平成26年度採用の職員2人に、実際に業務に携わる中で感じたことについて、この一年を振り返っていただきました。



松風園 生活支援員
神 友 樹

「おはようございます。すいません、あのですね〜」。毎朝、職員玄関に立つ利用者Yさんとの挨拶から、私の一日が始まります。そんなYさんのグループホーム入居がほぼ決まり、彼との挨拶を交わせる期間も残り僅かとなってきました。「施設から地域生活への移行」という長期目標を持つ方が多い松風園に赴任し、試行錯誤の毎日を送っています。一年が経過

しようとする中で、少しずつ業務に慣れて自信がつく一方で、4月に抱いた「何もかもが“はじめての〇〇”」という感覚は未だ昨日のように感じ、時間の流れの速さを痛感しております。

“はじめての宿直業務”では、19人の利用者さんを自分1人で見守ることが不安で、「静かな朝でありますように!」と思うこともありましたが、今ではむしろ利用者の皆さんがそれぞれ話し、歌い、叫び、笑う、寮棟に響き渡る「混声19部合唱」を楽しみに待っている自分がいます。

“はじめての行事担当”では、園内でソフトボールと風船バレーボールの大会を実施し、「またやりたい!」、「今度は勝ちたい!」という声が多く寄せられ、とても嬉しく思いました。

きっとこれからは、“はじめての〇〇”はなくなっていきますが、この感覚を大切に、“2回目の〇〇”では、さらに成長した自分の姿を目標に、日々の業務に励みたいと思います。



療育センター 相談支援部
臨床心理士兼相談支援員
中 村 茉 央

「俺のこと調査しに来たんだべ!」これは、発達相談会でお会いしたお子様の言葉です。発達検査の実施に少し慣れてきたときにこの言葉を聞いて一瞬頭が真っ白になりましたが、お子様のこれまでの経緯や想いに真摯に向き合わなくてはと、身の引き締まる思いがしました。

現在の業務の一つに、発達に気になる乳幼児対象の発達相談があります。各市町村に向向く相談会のため、次にお子様と会うのは1年後になります。乳幼児期の発達に携わる責任の重さや、毎日お子様と関わっている保護者様の支えとなるような助言の難しさ、地域でお子様の成長を見守る方々への支援の重要性を感じる日々です。

若手県社会福祉事業団に採用されて1年が経とうとしていますが、社会福祉には目の前の方を想うミクロな視点と、社会全体を見通すマクロな視点の両方が重要であることがわかりました。お子様とお子様を取り巻く環境を幅広く見つめ、お子様や保護者様が“調査”と思わずに、「来てよかった」と感じられる場を作れるよう、研鑽していきたいと思います。



たくさんの方にご参加いただきました

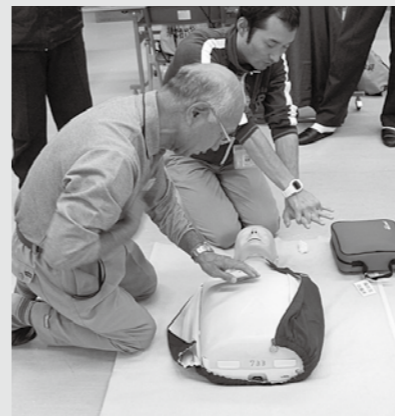
心強い味方 地域防災協力隊

障害者支援施設みたけの園
福祉型障害児入所施設みたけ学園(滝沢市)

みたけの園・みたけ学園には平成2年から、地域の方々と組織された地域防災協力隊があり、有事の際にはすぐに駆けつけていただく体制が整っています。福祉施設の防災協力組織が地域の方で構成されている例は、県内にほとんどありません。

地域防災協力隊は、現在15名で組織され、年2回、当施設との合同避難訓練を行っています。訓練後には毎回地域防災協力隊の皆さまと意見交換会を実施し、今後のみたけの園・みたけ学園の避難体制の強化・改善に向け、たくさんの貴重な意見をいただいています。その他にも、当施設にAEDが設置されていることから、みたけ職員の有資格者が地域防災協力隊や地域住民の方を対象に応急処置の講習会を実施し、AEDの使用方法を学んでもらい、緊急時には地域の方々が当施設のAEDを使用できる体制を作っています。

(生活支援員 山崎晋)



緊急時を想定して胸骨圧迫、練習用AEDの操作などをロールプレイ

シリーズ わたしたちの自慢 vol.6

各事業所の「ここが自慢!」ということを取り上げ、紹介するシリーズ。第6回は、みたけの園・みたけ学園、つつじの自慢を紹介します。



地域防災協力隊の伊瀬隊長(写真右)が表彰状を受け取りました

いつでもどこでも! GO!

障害者支援施設つつじ(三戸町)

つつじでは、外食や買い物等、外出する機会が多く、利用者の皆さんの希望に応じて、気軽に出かけられるようにしています。希望の多くは「おやつを買いたい」「〇〇屋のラーメンが食べたい」などですが、中には、「温泉に行きたい」「お母さんに会いたい」などの希望もあり、個別に対応しています。



24時間テレビチャリティー委員会からいただいた福祉車両が大活躍!

つつじからそれほど時間がかからないところに温泉があり、手軽に行くことができます。お風呂が大好きな方は、広い湯船でゆったりお風呂を満喫してリフレッシュ。三戸町から敬老のお祝いにいただいた入浴券を利用して、温泉に浸かりながら地域の方々とのお話を楽しんでいます。

(生活支援員 大渡俊明)



温泉で体も心もほっこり

第37回全国社会福祉事業団 実践報告・実務研究論文 入選

全国社会福祉事業団実践報告・実務研究論文で、いわて子どもの森業務改善チームの「団体利用への対応手順、方法の見直しによる業務改善の取り組み」が、佳作に選ばれました。この論文は、5月の連休や夏休み期間中に、多くの団体利用客が集中するため、それぞれの団体の希望に沿った受入れ対応を行い、混乱のない円滑な案内を行うために、対応の手順と方法を見直し、取り組んだ結果をまとめたものです。

昨年11月28日に表彰式を開催し、いわて子どもの森業務改善チームを代表して、清原裕子主任へ表彰状と副賞が授与されました。

若手県社会福祉事業団職員永年勤続表彰式
第37回社会福祉事業団職員実践・実務研究論文表彰式



水野理事長(左)から表彰を受ける清原主任

永年勤続表彰式

昨年11月28日、平成26年度若手県社会福祉事業団職員永年勤続表彰式を開催しました。今年度は平成元年採用の10人の方が、25年の長きにわたる功績を讃えられ、水野理事長から表彰状が授与されました。

受賞者を代表して、山根三夫相談支援主査(発達障がい沿岸センター)から、「勤続25年を経た今、残りの年月を、全ての人が、その人らしく、共に生きる豊かな社会の実現に貢献できるよう、誠心誠意業務に励む」と、力強さと決意に満ちた挨拶がありました。



団結力が強い「花の元年組(平成元年採用組)」の皆さん